

第 20 回 夢アイデアのようなまちづくりに関する提案

壱岐の島・学園都市建設計画

こんな夢のような話を、誰が読んで、見て感動してくれるだろうか。

それは、若者たちが、九州本土と朝鮮半島の玄界灘に浮かぶ小島に針路を立て島影を目指して、小舟に乗って漕ぎ出したことから始まる。

九州本土に比較的近くにある壱岐島に、学園都市を創る計画である。

この島は、南北約 17km、東西 15km、総面積約 138 平方メートル、壱岐島、九州本土と朝鮮半島との間にある全国で離島 20 番目の大きさで

現在、島の人口約 25, 000 人、世帯数約 11, 500 世帯、人口減少と過疎化は日々加速、平成 27 年に『国境の島 壱岐・対島・五島～古代からの懸け橋』として日本遺産第一号の認定を受け、国内外の交流な島を掲げ『海と緑と歴史を生かす癒しの島』を目指してアドバルーンを掲げて様々なキャンペーンを展開している。

本土と壱岐までの、アクセスは、いろいろ交通手段はあるもの、福岡から壱岐まで、高速船で最速65分と近場にある

しかし、市民・行政も一体となって様々な経済活性化対策の商品を提供しているものの、離島というハンデもあって長期的経済の安定したヒットには程遠く限界がある。

世界でも離島に学園都市は例を見ない。日本各地でも学園が出来れば、そこに街は活気づく。

生徒は日本各地、いや世界中から募集する。中高一貫教育、そして大学の併設、大学の学費は1人年間壱千万円、を見込む、教員・教授は世界各国から優秀な人材を募る。

この時代に生まれて、様々な夢のような話を振り返ってみた時10年前、20年前、50年前と夢物語をした笑い話が、現在はほぼ現実化されているのが不思議だ。不可能なことはない、出来ないことはない。ヒットさせる勇気がないだけなのだ。

そこで、壱岐島を学園都市の島として、人口の流入として地域の活性化を目指す、過疎化していく離島で、夢のような話を現実化していくには之しかない、今しかないと考えた。

まず、その理由として、

- 1, 壱岐の島は、温暖化で、平坦地が多く、土地の取得や建物にも建造物の建設に適していること。
- 2, 九州本土からのアクセスが非常に良いこと。
- 3, 自然豊かで、教育には最適の場所であること。
- 4, 農業、漁業も盛んで様々な学部の研究と創設が望めること。
- 5, 自然災害の被害を受けにくいこと。
- 6, 近くに外国(韓国)があること。

詳細に書けばかなり長くなるが、様々な問題をクリアすることができる。

これを長期的な計画として、例えば 5 か年を1区画 1 学部の創設を計画し、環境破壊しない程度の時間をかけゆつくりとした都市を創る。

壱岐の島に学園都市を建設していくことで、生徒の入学と卒業、人口の流入と流出を繰り返し定着化させていく。

このことすべてが、まちづくりとなり、地域振興、観光、農漁業、ひいては教育や子育てにも大きく波及していくものとする。

そして、全学部を全寮生活とさせれば、その周りにはたくさんの、施設や商店が立ち並び潤いと賑わい、ひいては経済を潤すだろう。

又、通勤、通学の手段もある、経済圏の博多までは約 70 分程度、

これも、現在老朽化している高速船 2 隻を、新たに建造すればもっと早く通勤・通学が可能となる。離島ならではの国土交通省の指定区間航路の活用、建造には、政府保証の鉄道建設・運輸機構で建造すれば安価で新造船取得も可能である。

中・高一貫教育にしながらも、島の、中・高等部を創り、4 つの街には①経済、商学部②教育・法学部③農・水産、④体育学部等々に仕分けして島全体を学園にする。

例えば、学園都市計画これを 20 年計画として、5 か年を 1 区画 1 学部の創設を計画とし、環境破壊しない程度のゆっくりとした都市を創る。

壱岐の島全体を学園都市に建設していく。

このことすべてが、まちづくりとなり、地域振興、観光、農漁業、ひいては教育や子育てにも大きく波及していくものと考える。

こんな、夢物語を、絵に描いた餅にならないようにするため、まず何かから手を付ければよいか、今の私にはその入り口が判らない。

これぞ、まさに、夢のような話なのである。

そこで、夢、アイデア街づくりに参加して、まず夢のような話を取り上げていただくことであろう。まずは、ここからが、始まり、、、、、。

今、離島を活性化させるには、学園都市を建設する計画実現しかないと長年考え続けている。

ハードルが高いのはわかっている、いつか、こんな夢のような提案が残っていて、そして将来実現してくれたらうれしい。

そして、私自身離島民でありながら、良く旅をする。

壱岐島を離れ今年の夏も一人離島を旅してみた。

そこには、手のつけようもない、休耕地や昔栄えていたはずの街並み閉まったシャッター通りが寂しそうに佇んでいた。

方や、選挙前、島の水田や畑にまでも、のぼり旗だけが元気よく風に揺られ、企業誘致、人口の歯止め、教育の充実を掲げていた。

選挙で、票を獲得するためには皆同じように、何年も何回も同じ沢山の公約を掲げるが、選挙が終われば、ただののスローガンで終る。

さあ、皆で勇気をもってオールを漕ぎだせ、ポット浮かんだ島影に
学園都市がもうすぐそこにある。